

治療2960人さらに前へ

山形大重粒子センター 開設5周年記念講演会



開設から5年間の治療実績を振り返り、治療効果向上への展望などを確認した講演会 ー山形市・山形大飯田キャンパス

当初見込んでいた年間600人の目標を上回り、開設からの累計患者数は2960人に上るとした。

「センターの認知度を高めて多くの人に最先端の治療を届けるため、東北各県で講演会を開くなど、広報活動に力を入れてきた」と強調した。コンピューター断層撮影(CT)画像を活用した治療精度の向上や大医院と併設するメリットを生かし、手術と重粒子線を組み合わせてすい臓がんの治療に取り組むなど、今後の展望に触れた。

同センターは2021年2月に前立腺がんの治療を開始し、22年3月には、どの角度からでも重粒子線を照射可能な「回転ガントリ」が稼働した。25年の第68回山新3P賞(提唱・山形新聞、山形放送)で進歩賞を受賞している。

(吉村映人)

山形大医学部東日本重粒子センターの開設5周年記念講演会が28日、山形市の同大飯田キャンパスで開かれた。医療関係者や地域住民ら約140人が5年間の治療実績を振り返り、北日本唯一の施設として、治療効果向上を図る研究や広報強化に取り組む必要性を確認した。

医学部付属病院の小藤昌志重粒子線治療センター長が講演した。従来のエックス線治療に比べ、照射範囲を最小限にとどめて副作用を抑えられる重粒子線治療のメリットや省エネ・省スペース化で国際展開を見据えた「山形モデル」の治療設備を紹介した。本年度の治療予定者は725人で、